

円山公園

円山公園は京都市における最も古い公園で、明治6年の太政官布告にもとづき、明治19年に付近一帯の社寺境内地が物見遊山の地として公園に指定されました。明治22年の市制施行とともに、京都府から京都市に移管されました。

その後、明治末期までの間に公園区域を拡張し、自然の丘陵を利用して渓谷をつくり、低地に池を設けて噴水施設を整備しました。これらの築造は、当時の庭師小川治兵衛が指導したものです。

築造当初から昭和50年代までは、公園内の流れには、琵琶湖湖水の原水が蹴上から導水管を通して供給されていました。

昭和初期には野外音楽堂が建設され、現在の公園の姿がほぼ出来上がりました。歳月を重ねてたくましく生じた木々の姿は、公園を訪れる人々に安らぎを与えてくれます。

A.....13 ムクノキ 円山公園



祇園町北側(八坂鳥居前東入)

高さ 25.0m 幹周 3.90m
にれ科 / 落葉高木

A.....14 エノキ 円山公園



祇園町北側(八坂鳥居前東入)

高さ 20.0m 幹周 2.40m
にれ科 / 落葉高木

山城盆地の原風景をつくっているともしられるエノキやムクノキは、大きく目だつ大木になります。「市民の森」に位置するこれらの木はどちらも、このあたりが寺社境内地だった頃からのもので、現在も公園木として残されています。

